令和２年１２月１６日（水）　中日新聞　朝刊（中東遠版）

袋井市が産業活性化
静岡理工科大と連携
センター設置へ合意書

袋井市と静岡理工科大（同市豊沢）は来年四月、産学官が連携して中小企業の技術課題の解決を支援する「ふくろい産業イノベーションセンター」を、同大内に新設する。原田英之市長と野口博学長が「センターの設置に係る基本事項に関する合意書」に調印した＝写真。

合意書には、市と大学、商工団体、金融機関などで構成する「ふくろい産業イノベーション推進協議会」を新たに設立し、協議会によりイノベーションセンターを設置する▽協議会はセンターの運営を大学に委託する▽センターには、センター長、コーディネーターらを配置する―など推進体制を明記。個別の訪問などによる技術課題の解決支援と産業イノベーションの喚起、静岡理工科大の技術、ノウハウを生かした研究開発の推進などを事業内容として盛り込んでいる。

同大で合意書を取り交わした後、センター長予定者として小笠原敦・滋賀医科大特任教授が紹介された。原田市長は「袋井の将来に向け、産学官が一体となって地域産業の活性化につなげたい」と期待。野口学長は「地域に貢献できる多様な人材の育成に努め、成果を上げていきたい」と話した。（土屋祐二）

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています